

# 持続可能な付加価値創造都市を目指す 公共交通を軸としたコンパクトシティ戦略



富山市の中心市街地を走行するセントラム



路面電車南北接続事業の完成イメージ。  
2020年3月21日開業予定

2018年6月、環境問題への配慮など持続可能なまちづくりを進める自治体として、「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定された富山市。その核となるのがコンパクトシティ戦略だ。富山市が実践した施策とその成果、施策によって形成された都市の魅力を紹介する。

## 人口減少、超高齢化の課題を LRT整備で解決へ

富山市は人口約42万人の中核都市。2010年をピークに人口が減少に転じ、一方では高齢化が進むという地方都市共通の課題を抱えている。自動車保有台数は1.7台/人と全国2位(富山県)、自動車の交通分担率は72.2%と自動車依存度の高さも特徴的で、持ち家志向の高さから地価の安い郊外に居住地が拡散し、車を自由に使えない市民には生活しづらい街となっていった。今後の人口減少と超高齢化により、問題はさらに深刻化すると予測されている。

その打開策として取り組んだのが、「コンパクトなまちづくり」であ

る。富山駅を中心に放射状に伸びている交通機関を活かし、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市機能を集積し、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指すというのが基本方針だ。

その象徴とも言えるのが、LRTネットワークの形成である。LRTとはLight Rail Transitの略称で、次世代型路面電車システムのこと。富山市では、利用減少が続いていたJR富山港線を第三セクター方式で再整備して「富山ライトレール株式会社」を設立し、2006年、日本初の本格的LRTシステムとして開業。路線の一部を路面電車化し、全長7.6kmの路線に13の停留所を設置した。

2009年には、環状線として運行す

る「セントラム」も開業。既設路線を一部延伸し、新型低床車両を3編成導入するなど。中心市街地活性化と都心地区の回遊性強化を図った。セントラムは、富山市が軌道や車両を保有し、富山地方鉄道が運行業務を行う「上下分離方式」を日本初導入。事業者負担が軽かったこともスムーズな開業を後押しした。

2020年3月には富山駅を挟んで南北で運行している2路線を接続予定。北陸新幹線改札口の目の前に路面電車停車駅を設置し、シームレスな乗り継ぎも実現する。

LRTや鉄道沿線から外れる地域には接続が便利なバス路線を整備。さらに、公共交通沿線への居住推進施策として割安な市営住宅の建設や居住支援の補助金などの助成も実施するなど居住推進を図っている。

## 持続可能なまちづくりに 官民がワンチームで取り組む

これらの施策は、どのような効果をあげたのだろうか。

1日当りの市内電車乗車人数は最も落ち込みをみせた2006年度の9779人から2018年度には1万4601人にまで増加。中心市街地の歩行者数は、2015年度から2017年度で14.6%増、中心市街地の空き店舗数は、

2012年度から2017年度で2.6ポイント減。中心市街地に賑わいが増していることがわかる。

また、都心地区では2008年から人口の転入超過を維持しており、公共交通沿線居住地区でも転入超過傾向に。中心市街地では小学校の児童数も増加し、子育て世代がまちなかに多く居住していることが伺える。

さらに富山市では、コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値都市の実現を目指している。「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」の一環として、路線バス等におけるEV・ECVバスの技術を公共交通機関へ展開することを検討。2019年度環境省「脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業のうち地域の多様な課題に応える脱炭素型地域づくりモデル形成事業」に採択され、調査を継続している。そのほかにも、水素ステーションの整備やセーフ&環境スマートモデル街区の整備、再生可能エネルギーを活用した農業活性化など多方面での取り組みを展開している。さらに、これまで地元企業3社と市とがSDGsの推進に関する包括連携協定を締結するなど、官民連携の動きも加速しており、持続可能な未来に向けた多世代の学びの場づくりなど、地域がSDGsでつながり、ワンチームとなって施策の連携強化に取り組んでいる。

### LRTに乗って体感、魅力的な中心市街地

公共交通網の整備により、まち巡りもしやすくなった富山市街地。その魅力の一部をご紹介します。

富山駅からセントラムで7駅、「グランドプラザ」は中心商業地区の賑わい拠点として整備された施設だ。積雪寒冷地の気候に配慮し、ガラスの大屋根で覆われた全天候型の多目的広場を有した開放的なスペースで

は、年間100以上の様々なイベントを開催。稼働率は92.9%と、街の賑わいづくりに一役買っている。

グランドプラザから徒歩3分の「TOYAMAキラリ」は、富山市立図書館本館、富山市ガラス美術館などが入る複合施設として2015年にオープン。建築を手がけたのは隈研吾氏で、立山の氷の岩脈のような光り輝くファサードは、富山の名物であるガラスとアルミと石を用い、印象的なデザインだ。あえて専用駐車場を設けず、公共交通機関利用を促している。

富山駅北側にある富岩運河環水公園<sup>ふがんうんがかんすいこう</sup>は、水辺空間の豊かさを大切にしたい親水文化公園。2008年には「世界一美しいスターボックス」<sup>えん</sup>があると

しても注目を集めた。富山県立美術館は、2017年8月に富岩運河環水公園の隣接地に移転オープン。「アートとデザインをつなぐ場」を目指し、新たなデザインによる工芸品や伝統工芸とコラボレーションした土産の開発など、産業振興にも寄与している。

公共交通機関の整備を軸に、住みやすく魅力あふれるまちづくりを進める富山市。これからもその動向に注目したい。



中心商業地区の賑わい拠点「グランドプラザ」。休日の稼働率は100%（2018年度実績）



市立図書館、富山市ガラス美術館が入る複合施設「TOYAMAキラリ」。開館時からの来館者数は290万人（2019年末）



富山駅北口から徒歩約10分の富岩運河環水公園と富山県立美術館

取材／富山市環境政策課、富山市活力都市推進課  
写真提供／とやま観光推進機構

## ちょっと寄り道 ～富山市周辺エリア～

富山市周辺にも魅力的なスポットが点在している。足を伸ばしてみるのも一興だ。



**高岡エリア**  
日本三大仏に数えられる高岡大仏。1907年、伝統の銅器製造技術の粋を集めて建立された。



**氷見・射水エリア**  
魚介類の宝庫として知られる富山湾。冬は寒ブリ、4～11月は白えびが水揚げされる。

**南砺エリア**  
日本一の木彫りの町として知られる井波地区。今でも木彫りの店が多く軒を連ね、2018年には「木彫刻のまち井波」の歴史・文化の魅力を伝えるストーリーが日本遺産に認定された。

